

NQPACK フラックス除去方法

NQPACK のコンタクトピンは、IC リードのコポラナリティを吸収する為、バネ性を有する構造となっております。リフロー後にフラックス洗浄を行う事も多いですが、洗浄液にフラックスが溶け込んでおり、洗浄する基板に NQPACK が搭載されていますと、接点に絶縁体であるフラックスの薄い皮膜が形成される事になり、接触不良の原因になってしまいます。また、バネ部分で固まり、バネの機能を果たさない恐れがあります。

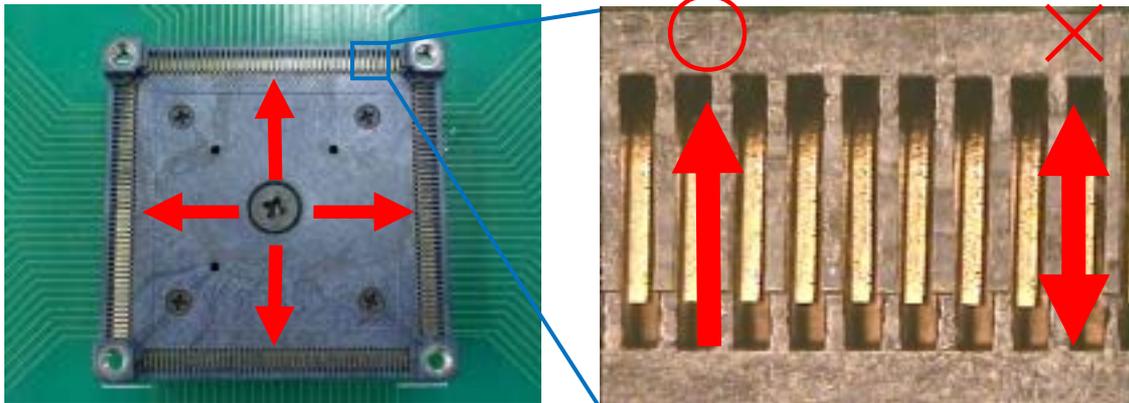
手半田を行う場合、多量のフラックスを半田付け部に塗布しないで下さい。半田付け時に、毛細管現象により、フラックスが NQPACK の接点部まで上がり、接触不良を起こす原因となります。

フラックスや異物除去は以下の手順（手順1～3）で行ってください。また、NQPACK を実装する際、HQPACK を嵌合させて実装を行うと、フラックスの飛散や異物付着を軽減することが出来ます。

■手順 1

刃先の柔らかいブラシに薬品を浸し、写真赤矢印方向に軽く擦ります。必ず矢印方向（片側通行）に3～4回擦ってください。ブラシを往復させるとフラックスを伸ばすことになり、コンタクトピンからの除去はできません。

薬品は、アルコール類をご使用ください。



※注意

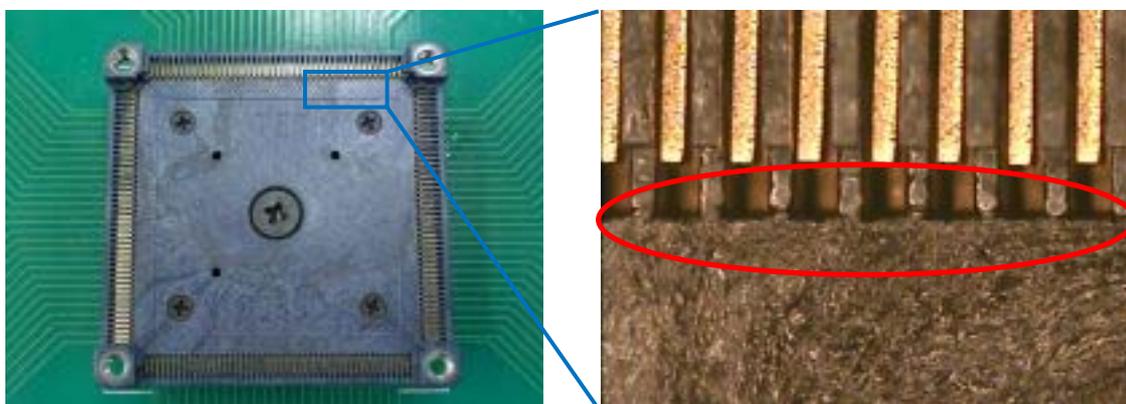
コンタクトピンは強く擦らないでください。固いブラシを使用したり、強く擦ったりす

ると、コンタクトピンが変形したり、モールドの仕切り壁が破損する恐れがあります。

また、薬品の取扱いには十分ご注意ください。廃液や汚れた薬品を使用すると、コンタクトピンに汚れがコーティングされ、接触不良の原因となります。

■手順 2

綿棒に薬品を軽く浸し、写真赤丸の部分を拭き取ってください。この部分に、フラックスや異物が溜まります。拭き取りを行わないと、IC リードや YQPACK のコンタクトピンに付着し、接触不良の原因となります。拭き取りは、手順 1 同様、片側通行とし、綿棒を往復させないでください。



※注意

綿棒に薬品を多量に染み込ませないでください。フラックスや異物がコンタクトピンに流れ出し、接触不良の原因となります。また、綿棒のフラックス除去した面を再度、別のピン（隣のピン等）に使用しないで下さい。綿棒に付着しているフラックスが新たに接点に付き、接触不良箇所を増す事になります。

■手順 3

薬品が完全に蒸発してから、ご使用ください。薬品が蒸発し、フラックスや異物が残っている場合は、再度手順 1 からやり直してください。

以上